

<広報委員会報告>

1 委員会メンバー（5名）

- 委員長：田丸 武志（荏原冷熱システム(株)）
副委員長：河村 佳彦（日本環境技研(株)）
委員：永島 茂人（新日本空調(株)）、松末 浩二（三浦工業(株)）、
増田 晋（三菱重工サーマルシステムズ(株)）
事務局：松尾 淳（広報部長）

2. 活動概要

(1) 機関誌「都市環境エネルギー」の発行、配布

- ① 7月（夏号）、11月（秋号）、3月（冬号）を発行した。
- ② 編集に当たっては、全体的にバランスの取れた記事の掲載に留意した。
- ③ 会員や外部（主として自治体）へ効果的に配付し、情報発信の充実と新情報の提供に努めた。
- ④ 機関誌の記事は、最新の1年分を除く全ての記事をPDF化し、HP上で一般公開した。最新1年分のみ会員専用としている。
- ⑤ シリーズ記事である建設レポートの創刊以来のすべての記事を抜粋し、「建設レポート抜粋集」としてHP上で会員に公開した。年度ごとに更新している。
- ⑥ 5年前より、広報委員が自ら企業・施設を取材して、その取材内容を機関紙に掲載しているが、今年度はコロナの影響で開催できなかった。

(2) 第28回都市環境エネルギーシンポジウムの開催

【シンポジウム】

- ① 第28回都市環境エネルギーシンポジウムを11月11日（木）に神戸国際会議場で開催した。
- ② 今年のテーマは、「脱炭素化とBCDを考えるシンポジウム」
- ③ CO₂排出量の増加に伴い、近年、異常気象などの気候変動影響が地球規模で増大しており、我が国では、台風や豪雨による大災害が毎年発生する事態となり、BCD（業務継続地区）の重要性も明らかになった。持続可能な成長のためには、社会全体を「脱炭素化」へ大胆かつ速やかに転換していくことが不可欠であり、それらの課題に深い知見を持つ講師の皆様の見解をお聞きすることができた。
- ④ 今年のシンポジウムはコロナの状況下にあったが、WEB開催とせず、工夫を凝らして対面開催とした。
- ⑤ 参加者を絞ったため、例年よりは少なく135名の参加になった。それ以上の参加申込みについては、やむを得ず断った。
- ⑥ 機関誌131号（春号）にシンポジウム要約版を掲載した。

【見学会】

シンポジウムの翌日に「神戸水素CGSエネルギーセンター」を見学した。

(3) ホームページ、メールマガジンの運用

- ① HPでは、最新の情報をタイムリーに掲載することに努めた。
掲載内容は
 - ・本協会や他団体主催のイベント案内
 - ・会員リスト、刊行物案内等
 - ・受託・自主研究報告概要
 - ・会員専用ページ（技術資料他）
 - ・その他
- ② メールマガジンでは、協会の行事・事業に関するもの、官庁からの広報指示や要請を受けたもの、他団体から広報要請されたもの等を会員に向けタイムリーに送信した。